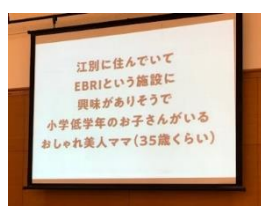




令和元年度「しりべし i システム事業スタッフ研修会」報告

毎年、研修会の頃となると天候が心配になるのですが今年も穏やかな日となってホッとしました。ほぼ全町村の役場、観光協会の方の参加頂き 55 名の参集に。会議っぽい雰囲気じゃない方が良いよね〜とワークショップ的な配置にし、夜の交流会は無しにしてランチ会に。そんな斬新さもあって、なんか「仲間！が集う」って感じのアットホームな空気感漂うセミナーでした。午前の「しりべし i システム事業スタッフ研修会」では i ネットの技術担当でもある山崎啓太郎氏からデザイナー目線を生かし参加している「江別市でのまちづくり事例」の紹介。続いて魅了ある広報の作り方「モテる広報デザイン講座」を講演頂きました。「まちづくり事例」で面白かったのは、自ら楽しみながら町を面白い

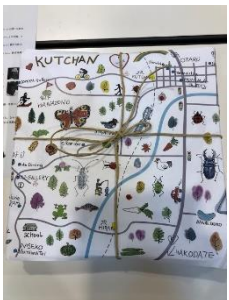


り、町を作っていくという姿勢。DJ イベントのフライヤーをデザインしたいから DJ をやってみる (=やりたいことを逆算していく) 飲み会を「With〇〇人=凄い

人を呼んで江別で飲み会」。お金を掛けずにイベントが“実現”したことに成る (笑)

「モテる」=注目を浴びる。デザインとは言葉だけでは表現できないものを注目させる。しかも見られるチャンスは一瞬。訴求効果を生み出すには分析をしていく「どんなイベント?」「ターゲットは?」「目的は?」「予算は?」と文字だけの開催要項がこんな風にデザインされていく (右 2 枚)。学んでもすぐに生かせるか? はデザイナー素質や感性が大きな要素であるので容易なことではないが、字体 (EX 遊ゴシック体、遊明朝) 色 (三色まで) イラスト (いらすとや、落書きアイコン) などの参考テクニックを伝授して頂いた。

さて、初めての試み「ランチ会!!」(遊明朝)



後観連さんからの「ランチ会 なんかどうでしょうね〜」の提案から、「それイイ!イイ!」と決まったランチ会。倶知安で立ち上がっていた「まち弁」

プロジェクトさんにご協力頂き、G20 で提供された「まち弁」見せて〜食べさせて〜と実現しました。その時々旬菜が材料でもあるので若干な中身変更はありましたが、とにかく何を食べても「旨い!」。裏に続く→

長期熟成のじゃがいも「五四〇（ごーよんまる）」で作られたポテトサラダの甘みはまるでスイートポテト。偶然「まち弁」取材のSTVさんが食している場面も撮りたいと取材があり、その日の夕方「どさんこワイド」内での放映でテレビ出演となったメンバーもいた。

倶知安じゃが 540（ごーよんまる）

倶知安さん「男爵」を専用冷蔵施設でふた冬（540日）長期熟成。栗のような甘さと、なめらかな食感が特徴。「倶知安じゃが」プラン度商品のうち、飲食店向けにのみ販売される高級食材（本間松蔵商店の販売品）お弁当の説明をして頂いているのは本間松蔵商店専務取締役、本間浩規氏

午後の続いての講演は・・・「後志—メディアとマーケティングについて」

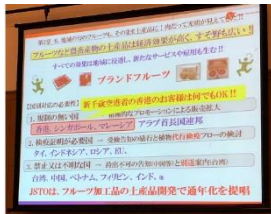


倶知安在住フォトグラファー、アーロン・ジャミエソン氏 “表現する” というテーマでは午前のセミナーに続く感じ。FREE にしては立派だな〜と目にしていた冊子の編集者のお1人だった。外国人からの目線でニセコエリアの春夏秋冬の過ごし方を紹介している。夏には日本人の避暑地として

の訪問も多いことから日本語版も初めて作成したが印刷経費削減策として英語版のページにQRコードをつけ日本語版が表示されるよう試みるという。（外国人向けの表紙は積丹の祭り、日本人向けは自然景観）

講演資料の写真はどれも美しい。彼のポリシーは「ダサイものは出すな。常に美しいもの」だそうである。写真の美しさに納得である。通訳付き講演だったので語学堪能な方には語学勉強にもなったよう。少し頭も飽和状態となってきたが・・・

続いてのセミナーも「今後の目指すべき『稼ぐまちづくり』について」とジャパンショッピング協会、



吉川廣司氏の講演。もっとインバウンドを意識し、地域経済の活性に利用した方が良いというお話。店舗の営業時間、お土産、何を求め、どんな体験を求めているか？日本食への興味は千円ランチでさえ、日本酒と組み合わせることで3~4倍の付加価値をと提案する。果物や野菜

のお土産が可能な香港、シンガポール、マレーシアには優れた果物多い後志果実は有力商品となるし斬新な加工品開発も可能であると長崎県平戸市が開発したベジシートや伝統的な有田焼お重も球体の斬新なデザインにすることで新たな可能性が広がると紹介。

「わが村は美しくー北海道」運動

第9回コンクール “真狩高等学校” 大賞受賞 表彰式の模様



農林水産に関係する活動を応援しようと生まれたコンクール。18年目にして後志から大賞受賞が生まれました。地元野菜を使ったスイーツ開発、道の駅での販売活動、有機大豆栽培への試み、大豆100粒運動を通して次世代に伝える活動など完成度高い、人とのつながり、六次産業でもあると高い評価を受けて

の受賞でした。村営の高校ながらパテシエ希望の子供達が増えるのが毎年定員を超えての入学希望があり、村の活性化、ケーキ屋さんがない村民への貢献度も高い。授賞式、取組み紹介でも全く緊張も見せず堂々としたものである。で、研修会参加の真狩村さんに聞いてみた『これまでに受けた沢山の取材での場慣れと、人を頼かせ、感動、共感をGet出来る話し方テクニックを会得したらしい・・・』というのである。栄養な表彰式、私の隣に座していた全道審査員と「あれ？二人のスカートが違う・・・」と女子らしく目ざとく気が付いた。今時の制服は組み合わせ自由なセレクトが出来るのだろうか？